



■発行年月日/2017年1月1日 ■発行/独立行政法人国立病院機構千葉医療センター ■発行責任者/院長 増田政久 ■編集者/副院長 杉浦信之
〒260-8606 千葉市中央区椿森4-1-2 Tel 043-251-5311 Fax 043-255-1675 http://www.hosp.go.jp/~chiba/

理念

信頼される医療を築く

Building Trust

私たちは、地域の方々に親しまれ、
信頼される医療を目指します。

基本方針

- ・患者さんをはじめ、センターに関わるすべての方々の人権を尊重し、相互信頼で成り立つ安全・安心な医療を目指します。
- ・地域の医療機関に信頼されるエビデンスに基づいた幅広くかつ専門性の高い急性期医療の構築を目指します。
- ・良質かつ最新の医療を提供するために教育・研究・研修・情報発信を推進し自己研鑽に努めます。以上の方針を継続的に実現する病院運営に努めます。



「謹賀新年」 研修医一同、精進して参ります。本年もよろしくお願い申し上げます。 撮影：小西由季（教育研修部）



新年明けまして おめでとうございます

院長 増田政久

明けましておめでとうございます。
今年も皆様方にとって良い年でありますよう祈念申し上げます。昨年、当院

における大きな話題の1つは前年に県より地域の災害拠点病院の指定を受けたのを機に甚大な地震被害を想定した対策訓練を市消防局の協力のもと1月23日、11月19日に実施したことでした。11月の訓練は初回の経験もあってか職員もスムーズな対応が取れていたことが印象的でした。阪神・

淡路大震災以降、本格的な組織だった災害対策が検討され現在に至っていると聞いています。東日本大震災や最近の熊本地震、鳥取西部地震などを経験する度に日頃からの訓練の重要性をあらためて認識する次第です。

さて今年3月4日(土)13:30より日本医療マネジメント学会千葉支部学術集会在当院で開催されます。医療介護のシステムづくりは重要な課題です。これから医療介護がどう変わるのか？ 地域包括ケアとは何か？ 地域の方々はどこまでご存じなのでしょう？ 市・大学・病院・住民代表の方々に参加して頂き、皆で知り、考えるシンポジウムを企画致しました。興味のある住民の方々の多数の参加を期待しています。気軽においでください。

トピックス(目次)

新任ご挨拶 / 患者サポートセンター	2
乳腺センター / 2階外科エリア / 学術集会開催のお知らせ	3
連携病院紹介 / 医療安全相互チェック	4
診療トピックス 前立腺がんの診断と治療について	5
ANECDOTA 一隠れた史実 (47)	6
がん患者サロンだより / 市民健康づくり大会	7
災害対策訓練を開催しました	8
国立病院総合医学会報告	9
千葉看護学校だより	10
市民健康セミナー / 専門外来・検査担当医師表 / 編集後記	11
外来担当医師表	12

主な行事予定

1/4	仕事始め
1/12	看護学校一般入学試験
1/26	第152回市民健康セミナー
2/23	第153回市民健康セミナー
3/23	第154回市民健康セミナー

新任ご挨拶



着任ご挨拶

眼科医長 新井みゆき

この度、平成28年10月1日付で眼科医長を拝命いたしました新井みゆきと申します。

私は平成7年に秋田大学を卒業し、千葉大学眼科学教室に入局いたしました。大学病院で研修後、関連病院として千葉労災病院、国立習志野病院、船橋中央病院、君津中央病院で眼科医師として勤務し、君津中央病院では医長を務めました。平成16年に千葉大学付属病院に赴任し、硝子体手術を学ばせていただきました。大学病院に10年間勤務し、主に硝子体手術と糖尿病網膜症の診療に

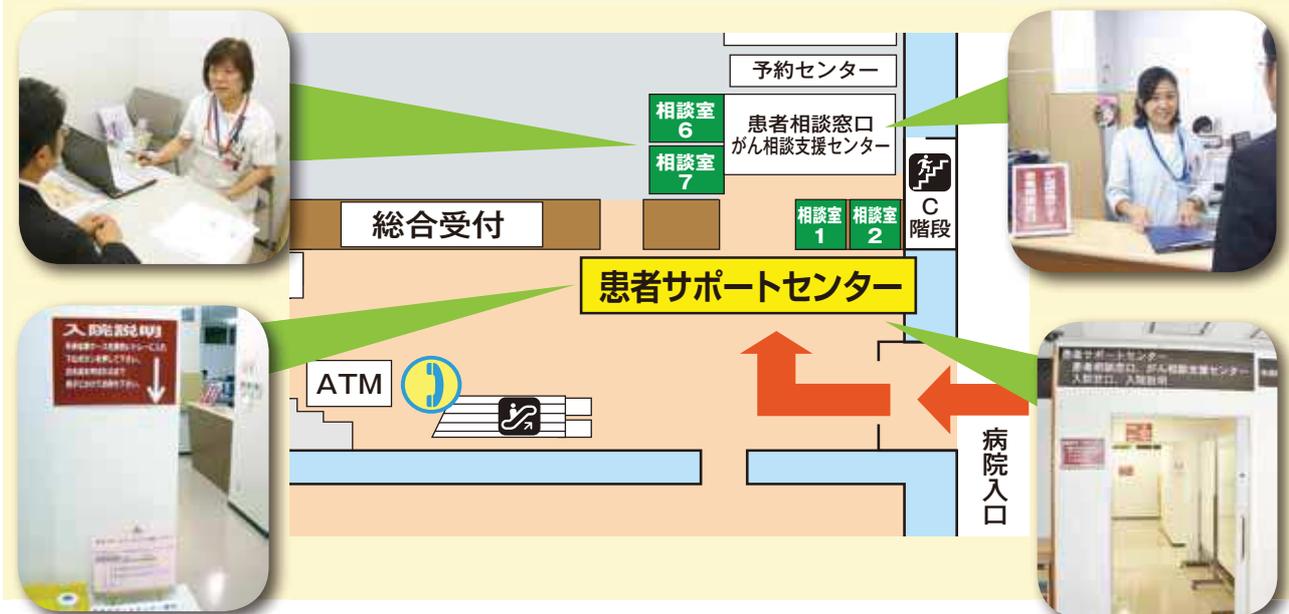
あたっておりました。縁あってH26年4月に医局人事にて当院へ赴任させていただきました。同期の根岸医師のもと眼科診療にあたらせていただいておりますが、今回根岸医師の退職に伴い医長を拝命することとなりました。

当院眼科は千葉大学の関連病院の中でも手術件数が多く、白内障手術は年間1000件程度行っております。また硝子体手術は25Gの極小切開硝子体手術MIVS (micro incision vitrectomy surgery) で施行しております。近隣の先生方から多くの症例をご紹介いただき大変感謝しております。歴代の先生方の築いたものを壊さぬよう、今後も引き続き治療に努めていく所存です。

今後とも地域医療に貢献できるよう微力ながら力を尽くしていきたいと考えておりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

「患者サポートセンター」がリニューアルオープンしました！

12月1日(木)より患者相談・がん相談支援体制の充実を目的に患者サポートセンターが新しくなりました。現状の「入院説明窓口」に加え、「患者相談窓口」「がん相談支援センター」を患者サポートセンターに移行し、新たに「入院窓口」(2月1日より)・「予約センター」を設置しました。



今まで窓口がわかりづらくご迷惑をおかけしましたが、患者相談窓口・がん相談支援センターでは、相談員が常駐いつでも相談できる体制となっています。医療費・生活の相談や利用できる福祉・介護の制度、病気への不安等がありましたら、ご相談下さい。また、予約センターでは、各外来で実施していた予約変更を直通ダイヤルを設けて行っています。これにより、外来でお待たせせず

に患者対応が出来ると考えています。

今後も患者サポートセンターは、患者さんやご家族が利用しやすい体制を目指して拡大していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

予約センター 043-251-5323 午後1時～4時半
直通ダイヤル 土・日・祝日をのぞく 平日の月～金曜日
(看護師長 安藤光子)

乳腺センターのご案内

平成28年11月17日より乳腺センターがオープン致しました。

乳腺外科の担当医師は2名(鈴木・中野)ですが、これまで外来Bブロック(7番)とJブロック(54番)に分かれて診療を行ってまいりました。乳腺外科が外科から独立して2年になりますが、外来患者さんのほとんどの方は2人体制で診療している事をご存じない様です。

今度の外来(Lブロック)は人間ドックの一角の職員更衣室を改修して新たに診察室が作られました。これまでの外来の場所とは大分離れてしまい(玄関からエスカレーターで2階上がったあと、従来とは反対側=左側=に外来があります)、多少混乱を招いておりますことをお詫



申し上げます。

まだ一部未完成なところもございますが、今後患者さんにとってより良い方向で診療に当たっていただける様に努力して参ります。

(乳腺外科医長・乳腺センター長 鈴木正人)

2階外来エリアがリニューアルオープンしました

2階外来エリアの改修工事が完了し、10月17日から新しい通院治療室の運用が始まりました。ベッド6床・リクライニングチェア7床の合計13床となっております。ご利用いただくのは、外来がん化学療法を受ける患者さんが対象となります。今回のリニューアルでは、新たに通院治療室の中にカンファレンス室を設け、患者さんやご家族の方が医師や看護師、薬剤師などとより落ち着いた環境で面談や相談ができるように工夫いたしました。

また今回の改修工事に伴い、中央処置室が新設されました。ベッド4床・リクライニングチェア3床の合計7床です。これまでは点滴や処置を行う場合、各外来の診察室で対応していましたが、静かな環境を確保し担当



通院治療室



中央処置室

看護師がすぐに対応できるようになりました。

外来は、初めていらっしゃる方や通院治療されている方などさまざまな方が訪れます。一人ひとりの患者さんがより安全で、安心して治療が受けられるように、これからもスタッフ一同取り組んでいきたいと思っております。

(外来看護師長 神作睦子・柳澤智子)

巻頭言でご紹介した

日本医療マネジメント学会 第16回千葉支部学術集会開催のお知らせ

テーマ 「各地域の包括ケアシステム導入への取り組みと問題点」

と き：平成29年3月4日(土) 13:30~16:30

会 場：国立病院機構千葉医療センター附属千葉看護学校など

シンポジウム：「住民主体の地域包括ケアシステムの構築」

千葉大学、千葉市保健福祉局、住民代表の方々などをシンポジストにお招きして、シンポジウムを開催いたします。そのほか、一般演題の発表があります。どうぞ皆様、ご聴講にお越しく下さい。

詳細は、運営事務局へお問い合わせください。

運営事務局 国立病院機構千葉医療センター企画課
(Tel 043-251-5311 内線2200 小川)

連携医院紹介

なかむら医院

千葉市若葉区みつわ台 5-6-11

☎ 043-285-6155

院長 中村 真人

当院は平成7年にみつわ台5丁目の住宅街で診療を開始しました。

近くには千葉市動物公園があり、ほんの数分歩けば緑の広がる環境に恵まれた地域です。

開業以来、地域のかかりつけ医として、高齢者から乳幼児まで幅広い患者さんを診ております。

専門は循環器ですが、スポーツ医学の面から生活習慣病、喘息、運動器障害の治療にも力を入れております。

患者さんの都合を考慮し、金曜日には夜間も診療しています。

私は、2010年から「千葉市を日本のシアトルに」をスローガンにAEDや心肺蘇生の普及にも尽力しており、近隣の小中高校で実演・講演・指導もしております。

千葉医療センターは、5年前に新病院になってからは、病院の外観・内装ともに明るくなり、患者さんの印象も良



いようですね。

顔見知りの先生も多く、いつも各科の先生方に大変お世話になっております。

どの科に患者さんを紹介しても、受付窓口・看護師さん・各科のご担当医に親切な対応をしていただき、患者さんからも感謝されて、かえって恐縮しております。

貴院は、精密検査用の機械なども最新のものが揃っており、患者さんにとっても、当院にとっても頼れる存在です。

今後とも病診連携でお世話になりますが、何とぞ、よろしく願い申し上げます。

医療安全相互チェックを行いました

医療安全管理室 佐藤 征子

千葉医療センターでは、安全・安心な医療を皆様に提供できるように医療安全管理室が中心になって、さまざまな安全活動をしています。今回は、その活動の一つをご紹介します。

当院も所属している国立病院機構には、143の病院・施設があります。国立病院機構（以下、機構とします）では、『医療安全管理のための指針』を定め、その指針を基に病院ごとに医療安全に関する活動をしています。また、病院ごとの安全対策の取り組み状況やその結果を機構に所属する病院同士で互いにチェックし、病院や機構全体の医療安全の質を向上する、標準化するための活動もしています。

平成28年度は、千葉医療センター、東京医療センター、相模原病院の3病院で医療安全に関するチェックを実施することになりました。当院は、11月18日、金曜日に機構職員と相模原病院の立ち会いのもと東京医療センターによるチェックが行われました。チェックを行うのは、各病院の医療安全を推進している職員が担当します。今回は、副院長、医療安全管理担当者、感染管理担当者、各部門責任者の医師や看護師長、薬剤や検査部門等の管理者など様々な医療の専門職員が東京医療センターから18名、相模原病院は10名が当院に来てチェックしました。それぞれの病院職員が3チームに分かれ、当院の管理体制や安全対策、取り決めなどが記載されている

マニュアルを確認し、更に、当院のいろいろな部署を訪問し、現場で安全対策について聞き取り調査や実際の診察や検査の場面を確認しながらチェックされました。また、それぞれの病院での具体的な取り組みや対策についても活発に意見交換や提案をしてもらうなど有意義な時間となりました。

《当日のチェックした部門と部署》

	Aチーム	Bチーム	Cチーム
前半	医療安全管理体制 放射線科部門	感染管理体制 臨床検査部門 事務部門	薬剤部門 栄養管理室 リハビリ室
後半	救急病棟 ICU	4東病棟 内視鏡室	手術室 医療機器管理室

今回の相互チェックの当日のまとめとしては、「良く取り組みがされている」と好評をいただきましたが、後日、あらためて東京医療センターと相模原病院から書面で結果をいただくこととなります。その結果や当日の意見交換で得られた意見や提案なども含め、安全についての取り組みをしていきたいと考えています。そして、皆様に千葉医療センターで治療をして良かったと思っていただけるような病院作りをしていきたいと思っております。

診療トピックス ⑥4

前立腺がんの診断と治療について

前立腺がんは男性の精液をつくる臓器、前立腺にできたがんを言います。(図1)

早期に発見、治療すれば完治する可能性が非常に高いのですが、放置すればリンパ節、骨に転移しますので、早期に前立腺がんを発見することが重要です。近年PSA検査という血液検査が普及し、症状のない方でも前立腺がんの早期発見が可能となり、前立腺がんの患者数が増加しています。国立がん研究センターの2015年の男性がん罹患数(新たにかんと診断される患者数)予測では、前立腺がんは胃がんを抜き最多になるとされています。(図2)

千葉市でもPSA検査による検診が、節目検診(50歳以上の5歳毎の方が対象)という形で行われています。また人間ドッグでもオプション検査として一般的に実施されています。50歳をこえた男性の方はどのような形でも一度検査を受けてみることをおすすめします。かかりつけ医のある方は(泌尿器科でなくても)、かかりつけ医の先生に相談してみるとよいと思います。

PSA検査で前立腺がんが疑いありとなった方は、前立腺生検という精密検査(当院では1泊入院)にて前立腺組織を採取し、前立腺がんの有無を確認します。この検査にて前立腺がん細胞が確認された方は、病期診断を行ったのち治療が開始となります。(図3)

早期発見された前立腺がんではPSA監視療法、手術療法、放射線療法が主たる治療になります。いずれの治療も治療成績は良好ですので、患者さん自身が、それぞれの治療法の長所、短所(合併症)を理解したうえで、治療法を選択していただくことが可能です。手術には従来からの開腹手術(当院ではこの方法で行っています)、腹腔鏡手術、ロボット支援手術があります。放射線治療には外照射法(当院ではこの方法での治療が可能です)および組織内照射法という方法があります。高齢の方、重篤な合併症のある方、転移がある進行病期と診断された方はホルモン療法が主たる治療となります。ホルモン療法は前立腺がんの増殖に男性ホルモンが深く関与していることを利用した治療法です。一般に外来通院のみで治療が可能で、身体の負担の少ない治療法とされています。

当院には前立腺がん治療に多くの経験を持つ医師が複数在籍しています。PSA監視療法、手術療法、放射線療法およびホルモン療法いずれの治療法も可能です。治療

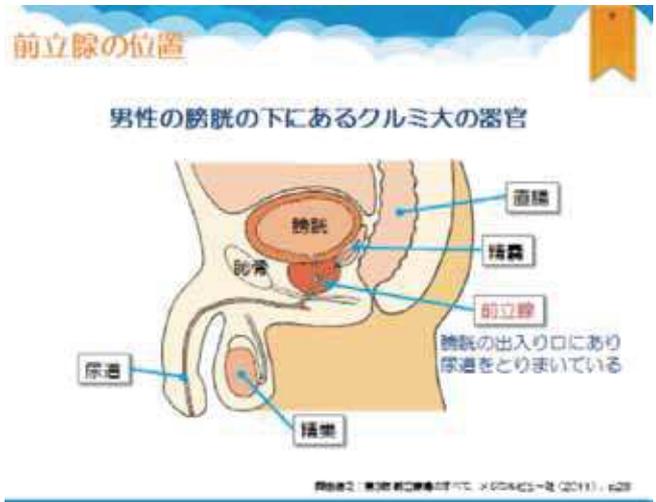


図1



図2

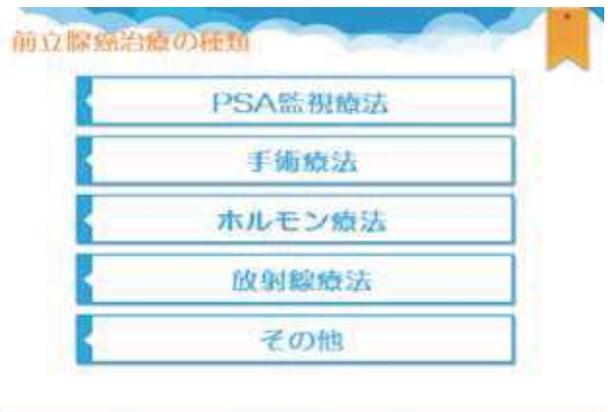


図3

するにあたっては、患者さんおよびそのご家族の希望をよく配慮し、ベストな治療ができるよう、これからも努力してまいります。(泌尿器科医長 一色真造)

A N E C D O T A (47)

— 隠れた史実 —

元研究検査科長 高澤 博

前号では千葉大医学部の前身である千葉共立病院、県立病院の院長二階堂謙（以下謙）(図1)と東校までの関係を、佐藤尚中（以下尚中）(図2、3)との絡みで通覧しました。

今回は明治4年7月8日(1871 8 23)来朝した御雇いドイツ人教師ミュルレルとホフマンの改革から前者との関係を追ってみます。当時の東校における「予備教育の不足」「教育の非系統性」すなわち解剖学や生理学の知識が全く欠乏していながら、すぐ臨床医学に取り付いたのであった。ここに彼らの改革の主眼が向けられた。両者が来着当時大学東校には約300名の生徒がいたが、彼等は一体に年令が高く素質も良くなかった。この状態が生徒の整理に向かわせ、大学東校の閉校に伴う全生徒の退学を機として優秀な者のみを再入学させ、年令の高低に応じて本科、予科に配した。明治5年3月の生徒数の最も古い記録として、本科内員生50名、予科内員生63名、外員生96名が残る。ミュルレルは正則生を内員生に、変則生を外員生と呼称を改めるとともに外員生の予科が廃され、内員生の予科の修行年限が2年に短縮された。内員生本科5年、外員生3年となった。その他、予科課程の充実が挙げられる。この段階で謙は外員生であった可能性が考えられる。彼のドイツ語による授業(通訳付き)の資料が見つかっていません(英語の化学、神経系ノート2葉あり)。邦語による臨床教本は残って居ます(弟順庵の蔵書か)。ここに明治5年撮影と推測できる生徒集合写真の一葉を示します(図4)。全体に年配者が多いことが判ります。追って明治6年、尚中がドイツ人教師との対立から辞職し、謙も千葉県権中兼共立病院院長の役職を得て第一大学区医学校を去ります。

ここで尚中から謙への手紙の一部を紹介し両者の関係の深さを見てみます。「・・・御奉職之段大喜之至ニ奉存候、此上共御尽力之程於僕所願候、扱御県下売薬御制禁之由承申候、・・・十一月四日 佐藤尚中 二階堂謙様 貴下」とあり、謙の千葉県への赴任を尚中が大喜しており、制禁売薬の相談に乗ってくれています。あと二通の尚中書簡には人事に関すること 願書提出し就職以來かと思われるものがあります。仔細は不明ですが、これらからも尚中と謙との関係の深さがわかり、謙の千葉県就職に尚中が深く係ったことが推測されます。

さて、明治初期のこの時代の生徒名、人数、授業風景等は資料に乏しく、ここに今に伝わる希少な授業風景をそのまま転写します。出典は入澤達吉「レオポルド・ミュルレル——本邦医育制度の創定者——」(『中外医事新報』1200号、405～408)。「ミュルレル等が着任した時には凡三百人の学生が医学校にいたが、彼等は大きな机に十人乃至十六人宛坐っていた。銘々が皆一つ宛の火鉢と、煙草や煙管を持って席に就いていた。其大机には机毎に一人の監督が座を占めていた。学生は当時ヒルトンやヘンレーの解剖書を纏っていたが、之を解するに通訳の助を借りても尚を困難であった。[略]其頃の医学教育は甚無秩序であって、解剖や生理の知識が全く欠乏していながら、すぐ臨床医学に取り付いたのであった。心臓病の講義を聴いて居る学生が、まだ血液循環の理すら会得して居なかったのがあった。そこでミュルレルとホフマンは各々一週間六時間宛解剖学を通訳を介して教授した。併し一体に学生の年齢も老いて居り、素質も良くなかった。仍てミュルレルは明治四年の十二月に文部卿大木喬任の同意を得て、学生中選択して僅かに五十九人だけを残し、他は皆な修行をやめさせた。此残った内には死亡したもの、病気で中途退学したものもあり、ミュルレルが帰る頃には三十五人に減じた。」

この記述により教室の生徒の様子、学力、明治4年の改革の経緯の一端等が理解できます。但し文中の生徒数については不明の点が多い。残存する資料で初めて生徒数が記されているのは、東校が明治5年8月に第一大学区医学校に改組された時期のもの



図1 二階堂謙(右)と弟順庵 ガラス湿板(アンプロタイプ) 時期不詳 二階堂みち蔵



図2 大学東校時代の佐藤尚中。村上 一郎「蘭医佐藤泰然」(佐藤恒二蔵)



図3 明治5年頃の教職員 前列中央洋服姿の尚中、その右和服の三宅秀。旧江戸医学所跡にて。主に変則生を教えた。村上一郎「蘭医佐藤泰然」(鹽谷不二雄蔵)



図4 明治5年頃の医学生集合写真。高齢の生徒が多いようだ。変則生(附属医学生?)の可能性が推測できる。前列右から3人目が謙かもしれない。家紋が三つ葉柿です。内田九一撮影、二階堂みち蔵

で(図4)、当時本真(正則)生徒60名と変則生徒130余名とが在学していたことが判明する。さらに変則生については、それがこの改組に伴って廃されたため、130余名中から前途有望の60名を抜擢し、附属医学生の名稱をもって本真生の末に列せしめて、「教師ノ講義二陪シ教官ノ復講ヲ聴カシメタイ」とする伺書(明治5年9月23日認可)が残されており、これと先に引用した条項とは微妙な差異が存するのです。が、謙の在籍年限を考慮して附属医学生に属していたと推測できそうです。尚中は、変則生廃止に本邦西洋式医師不足の現状から反対して、明治6年には辞職する。

謙の履歴に戻ると、明治三年閏十月東校に入学(20才)、明治六年四月まで御雇臨時教師シモンズ(ドイツ人)、マッセ(フランス人)、ドイツ人教師ミュルレル、ホフマンの学術を研究したという。さらに明治六年五月より九月まで二等待医若佐純(相良知安とドイツ医学導入に携わった。明治十年日本橋橋殻町2丁目に告成堂病院創立)に雇われ同家塾生を教授した。明治六年九月二九日千葉県権中属に任じ、明治七年七月共立病院長兼務、同八月千葉県中属、明治九年二月二十五日第一課衛生掛兼勤、同年十月千葉病院院長申し付けられる。明治十年一月二十四日日本官廃され同年二月二十三日更に同院長としての条約を千葉県令柴原和と取り結び、奉職期限を同月より明治十二年一月三十一日までの二十四ヶ月と定める。明治十一年十月依願解約、更に千葉病院教師に転任、同年十一月松戸病院院長を申し付けられる。明治十二年三月依願解職する。明治十年十二月第三百九十八号医術内外科開業免許状を受ける。父潜庵明治十年に歿し、郷里桑折での医院を継ぐ必要があったものと考えられます。帰郷後は伊達・信夫二郡医師五十余名で医事会設立。彼は朗らかで言語明晰で人との交わりを善くしたとあります。また、父母を東京案内するほどの親孝行者であった。謙は在家にて、明治十三年六月胃瘍を患い翌七月十五日歿する。嘉永三年四月十七日(1850 5 28)生。約30才1ヶ月の生涯であった。

二階堂家の墓所は福島県新町の桑折寺(香林寺)に祀られている(図5)。

二階堂家の資料の閲覧を許してくれた二階堂みち氏に深甚の感謝の意を表します。

参考資料「東京大学百年史通史」「順天堂史上」「二階堂家写真・資料」。「日本橋医師会前史記録集成下」



図5 二階堂家墓所(桑折寺一時香林寺時宗)。左端墓碑が半山二階堂謙の墓碑、中央が潜庵妻春子の墓、右端は弟順庵らが眠る二階堂家の墓。此処には写っていないが潜庵の墓碑が春子墓正面に位置してある。その題字は松本良順の筆になる。著者撮影。

がん患者サロンだより

県内の他のがん患者サロンは？

がん患者サロンは、「がん診療拠点病院」に指定された病院や、大きな総合病院などで開催されています。

主催・運営は、病院側（看護師さんやソーシャルワーカーなど）であったり、患者団体などが院内の施設や地域の公共施設などを借りて開催している例もあります。

がん患者サロンによっては、該当医療機関での診療を受けている方、特定の部位の方など、参加者を限定していたり、事前予約が必要などもあります。

千葉県内の主ながん患者サロンは、パソコンなどで【ちばがんナビ】検索⇒【仲間を探す】で探るか、病院の『がん相談支援センター』にお問い合わせ下さい。ご希望のサロンがありましたら、開催日時、参加資格・予約の可否などをサロン開催者などにご確認ください。

患者サロンの話題から 後遺症・副作用など(2) — 抗がん剤 —

抗がん剤の副作用では、脱毛のことや、食欲不振・味覚の変化、また吐き気や、だるさ、手足のしびれのことなどが話題になることが有ります。

脱毛のことでは、「ちょっと髪を触っただけで抜けるばかりか、寝ていても抜けるので、枕は髪の毛だらけ」他、「睫毛も眉毛も、体中の毛が抜ける」。また、「お風呂で髪を洗っていると、バサッと抜けるとショック」、「痛みはないが、頭髪はまだらになり、鏡を見るのがいやだったというより、見られなかった」との方も。

そして、「ウィッグは高いし、皮膚が痛い」と利用感が今一のご様子の方も。稲毛区のボランティアグループ「タオル帽子の会」寄贈の帽子（2階通院治療室にあり）を利用した方は、「髪が無いとお風呂上り寒く、サツとかぶることができ、とても助かる」、「フィット感がとても良い」、「この帽子を被りながら治療に頑張ります」など、感謝の言葉が寄せられています。

他にも、「爪が割れたり剥がれたり、指で物がつかめない」、「爪（指）先に力が入らない」、「肌の色が変わった」などの方も。

がん体験者として、仲間で気持ち想いを分かち合いません。世話人一同（がん体験者）、ご参加をお待ちしております。

（宗水）

がん患者サロン プロヴォックス患者交流会開催案内

日時：毎月第4金曜日 13:30～16:00

1月27日(金) 2月24日(金)
3月24日(金) 4月28日(金)

場所：千葉医療センター 地域医療研修センター
（当日、正面玄関に案内図を掲示します）

対象：主としてがん体験者及び、そのご家族です。
どちらの医療機関にお掛かりでも参加できます。
（予約不要、参加費は無料です）

問い合わせ：TEL 043-251-5311(代表)

（経営企画室 久米）

市民健康づくり大会

臨床検査科 生理検査室 柿沢 愛子

「健やか未来都市を目指して 千葉市市民健康づくり大会」が市民の日関連行事として平成28年10月15日（土）に開催されました。新世紀ちば健康プラン推進協議会、(公財)千葉市保険医療事業団、千葉市の主催で、昨年と同様Qiball（きぼーる）が会場となりました。当日は千葉医療センターや附属千葉看護学校の他、千葉市医師会、歯科医師会、薬剤会など多数の団体が参加し、～みんなで支え合い、健康づくりの輪を広げよう～をテーマに健康づくり体験、健康相談等が各ブースで開設されました。当センターでは、手洗いトレーニングやロコモトレーニング、超音波骨密度測定、AED・心臓マッサージ、頸動脈エコー検査などの体験から健康相談、栄養相談、お薬相談が行われ、私は臨床検査技師として頸動脈エコー検査の体験ブースを担当しました。体験ブースでは午前・午後ともに列が途切れる事なくつづき、250名を越す方々に来て頂き大盛況となりました。頸動脈エコー検査は、超音波を当てて頸動脈を観察する事で、全身の動脈硬化の程度が診断できる検査です。体験に来て頂いた方の中には、血中コレステロールが高めで動脈硬化を気になされていた方や初めて今大会に参加さ



れ動脈硬化について興味を持たれた方、首の血管が画像に映し出され驚かれる方もいました。体験時には検査説明や動脈硬化の要因等をお話し、普段の生活習慣から見直すきっかけになればと思います。

私自身、今大会で3回目の参加となりますが、市民健康づくり大会を通して当センターについて興味・関心を抱いてくださる方も増えている様に感じられました。また、頸動脈エコー検査後に当センターを受診して頂いた方も数名おり、有意義な検査体験を行えたのではないかと嬉しく思います。来年も健康づくりへの関心と意欲を高めて頂くための催し物を考えていきたいと思っています。

災害対策訓練を実施しました！

管理課長 木村 寿

平成28年11月19日（土）、大規模災害に備え地域災害拠点病院としての役割を果たせるように、また災害対策マニュアル等の更なる実効性を高めるため第2回災害対策訓練を実施しました。

当日は、職員200名と学生ボランティア80名、更に千葉市中央消防署の協力も仰ぎ、傷病者等に対する院内受入体制の確立と的確な情報収集及び迅速・確実な傷病者のトリアージ等災害対応能力の向上を図ることを目的とし実施しました。

被害想定として、当日8時30分に東京湾北部を震源とするマグニチュード7.5の地震が発生し、千葉市においても震度6強の地震動により被害が多発、当センターの被害状況として、「建物使用可能」、「ライフライン確保」、「電気は自家発電使用」、「エレベーター及び電子カルテは停止」等の被害想定の下、多数傷病者受入可能な状態であると判断、災害対策本部長から病院を、「災害モード」とする、通常の外来診療及び不急手術等の停止並びに各トリアージポストの設置等を宣言し、訓練が開始されました。

各部門の被災状況等報告訓練、学生ボランティア80名を模擬

患者としたトリアージ訓練、トリアージ後の入院、各ポスト間移動の患者搬送、X線・検体等検査の搬送訓練、他医療機関受療状況の確認と受入依頼、広域搬送依頼連絡の他、第2回目の災害訓練ということで、各ポストのトリアージ訓練、入院患者の搬送訓練、X線・検査等のオーダー時実際に各部門まで患者・検体搬送、模擬薬剤を使った処方・搬送訓練等に重点を置き行いました。

第1回目同様、更なる災害対応、マニュアル等の実効性を高めていきたいと思っております。



赤ポスト



黄ポスト



正面口ポスト

千葉市中央消防署との合同多数傷病者対応訓練！

地域災害拠点病院として災害時の傷病者に対する院内受入対応の構築を図るにあたり、千葉市中央消防署救急隊との合同訓練も同時に行いました。

千葉市中央消防隊としても、部隊運用の確立と的確な情報収集及び迅速・確実な傷病者のトリアージ・救護活動の初動体制と医療機関との連携による公立的な傷病者搬送体制の確立を図り、災害対応能力の向上を目的としてご協力いただきました。

千葉市中央消防隊としても、部隊運用の確立と的確な情報収集及び迅速・確実な傷病者のトリアージ・救護活動の初動体制と医療機関との連携による公立的な傷病者搬送体制の確立を図り、災害対応能力の向上を目的としてご協力いただきました。

千葉市中央消防署救急隊（トリアージ、搬送）

看護学校体育館が地震により倒壊し多数傷病者が発生している状況を想定し、千葉医療センター附属看護学校3年生に協力いただき80名を模擬患者として救急隊による救護活動、トリアージ・搬送訓練を行いました。



救護活動



トリアージ



搬送

☆災害訓練に参加した看護学生体験談・・・！

62期生 3学年 渡辺 亜実

今回、初めて災害訓練に参加させていただきました。学生は患者役になり、震度6の地震を想定した災害訓練の中で本格的なトリアージや院内搬送を体験しました。

患者役になって患者さんの苦痛や不安は医療従事者の関わり方が大きく影響をしていることがわかりました。特に

災害に遭い、心身ともに強い苦痛・不安を感じている傷病者にとって搬送や処置に待つ時間が長くなることや声掛けが行われない事で苦痛・不安が増すと感じました。そのことから私は看護学生として看護師が処置に合わせた細やかな説明や声掛けをする重要性を学ぶことができました。

この体験を生かし、どんなときでも患者さんへ安心感を与えられ看護実践が行えるよう努めたいと思えました。

国立病院総合医学会報告

一般口演の座長を行って

救急・ICU 病棟師長 亀崎 智都江

平成28年11月11日、国立病院総合医学会において、一般口演の座長を行わせていただきました。私が担当したのは、「看護総合 看護管理・業務・方式・体制」で、7演題が登録されていました。内容は、「地域包括ケア病棟の退院支援内容の検討」「病棟業務量調査から業務改善を試みる」「看護過程オーデットによるケアプロセスの評価と改善」「高齢者病院で外来待ち時間の有効活用に取り組もう」「内視鏡看護の必要度評価票の開発」「内服薬自己管理に関するヒヤリハット要因の分析」「離島から入院する患者家族の支援」でした。どの演題も、日常業務の中で疑問や不明点を明らかにし、「患者さんへのよい看護をしたい」という思いの伝

わってくる内容のものでした。

進行の準備にあたっては、抄録を読み、関連する分野の動きや問題となっていることを調べ、また不明な点は、病院内の関連する部門に教えていただきながら準備を進めました。普段取り扱わない分野の問題点を知っていく過程は、楽しくも感じました。当日は、時間通りに進められるか緊張もしましたが、質疑応答も活発に行われ、無事に終了しほっとしたのが本音です。私自身も、患者さんにとって役立てられるような看護研究や業務改善にとりくみたいと思っています。



ベストポスター賞を受賞して

臨床検査科 細菌血清主任 池田 和典

このたび、第70回 国立病院医学総合医学会において「当院の超音波装置の機器管理と運用について」と題し超音波装置管理委員会での臨床検査科の活動を報告してベストポスター賞を頂くことができました。大変光栄に思っております。

当院の超音波装置管理委員会は2013年5月に院内に点在する各診療科所有の装置の適正かつ効率的な運用、管理と購入計画を図るため発足され、臨床検査科は装置の故障対応や定期保守、各診療科の要望の整理を行ってきました。委員会では超音波検査に関することを協議し問題解決を図ってきました。これらの活動により、超音波装置の共有化や医師の診察時間に合わせた予約枠の

構築ができ、超音波室での検査実施件数は委員会発足後、右肩上がりの増加を続けています。



ポスター賞副賞

検査科生理

検査室では超音波検査に関する相談や要望を随時受け付けております。今後も微力ではありますが病院運営の一助になるよう活動を続けていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、ベストポスター賞の受賞にあたり超音波装置管理委員会の運営にご協力頂いている病院スタッフの皆さまにこの場を借りて感謝の意を示したいと思います。

ベスト口演賞を受賞して

薬剤部 渡部 智貴

平成28年11月11-12日に開催された第70回国立病院総合医学会においてベスト口演賞(演題O-84-6国立病院機構所属病院における肝臓病教室についての検討)を受賞させていただきました。

本発表では、全国の病院に対して実施させていただいた肝臓病教室の実施状況に関するアンケート調査を発表、様々な施設における肝臓病教室の実施状況を学ぶことが出来ました。肝臓病教室に携わらせていただく中で、医師をはじめとする様々な職種の方々と一緒に働くことが出来ること、多くの患者さんに対する療養指導に関わること

が出来ていることにやりがいと責任を感じております。

今後も、肝臓病教室を通して、通常の診療の中では提供しきれない肝臓病に関する詳細な情報を提供し、患者さんのセルフマネジメントを育む教育の場として機能、発展していけるよう取り組んでまいりたいと思います。ご指導いただきました多くの方々に心より感謝申し上げます。この繋がりを大切に、千葉医療センターの薬剤師として精一杯業務に取り組んでまいりますので、今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。



千葉看護学校だより

椿森祭を通して感じたこと

64期生 中村 彩理

平成28年9月17日(土)に第49回椿森祭が行われました。各学年の実行委員を中心に「愛～手から伝わる看護の力～」というテーマに合わせた催し物を行いました。皆様から寄付していただいた品物をバザーで販売し、収益は2万1580円ありました。その売上をどのように社会に還元するか学生間で検討し熊本へは義援金、つばき保育園におもちゃとして送らせて頂くことを決定しました。



保育園におもちゃを持って行くと保育園の子供たちの嬉しそうな顔、そして「ありがとう」の声に実行委員もとても幸せな気持ちになりました。また、復興のためになにか少しでも力になればと思い、1万8380円を熊本へ義援金として送らせていただきました。

このように校内での活動を通して地域の方とつながりを持つことや社会貢献について考えることができるよい経験となりました。学校行事を行うに当たり各委員会メンバーとの連携や他学年との交流も盛んに行われ、学生間のコミュニケーションを図る機会にもなりました。

今後も学生や自治会を中心に地域の方と関わる機会や、社会貢献できる機会を設けられるよう積極的に活動していきたいと思えます。

禁煙対策委員会の活動を通して学んだこと

64期生 大我 祐子 金子 知令 河道 美英
諏佐 京花 中村 彩理 関 希美

当校は、平成23年より地域の健康増進、維持向上を図るため、千葉県看護協会から禁煙教育モデル事業を受け、現在も禁煙の推進運動を禁煙対策委員会を中心にすすめています。

今年は椿森祭と、千葉市民健康大会で活動しました。

椿森祭では喫煙による実害、誘発される疾患や、禁煙のメリットについて調べ発表しました。また、体験コーナーを設け、肺チェッカーを用いて肺年齢の測定も行いました。禁煙の大切さを知っていただくため、大人だけでなく子どもにも親しめるコーナーにしようとして、川柳しおりを配布しました。禁煙コーナーには多くの地域の方に訪れていただきアンケートには、「発表がわかりやすかった。」「家族に禁煙を勧めたい。」という言葉もありました。興味、関心を持っていただき、自分や家族の健康に目を向けてもらえ、嬉しく思いました。

10月15日(土)は、千葉市民健康大会の千葉県看護協会のブースに64期生1年生の有志6名が参加をしました。当日は、40～80代くらいの方が多く、肺年齢の測定を開始する前から待っている方、毎年この測定を受けている方など、健康意識の高い方が参加されました。中には「去年よりも数字が良くなっている」と喜んでくださる方もいました。

今回の活動を通し、私たちは喫煙の恐ろしさ、喫煙が周囲に及ぼ



す多大な害について理解することができました。同時に、地域の方々と関わり合いながら、健康意識の増進に少しでも寄与する事で活動の意義を実感でき、達成感につながりました。

今後も、禁煙に限らず地域の方々と交流の機会を持ち、健康増進に関わっていきたいと思いました。

64期生 戴帽式の誓い

担任 高 梨 亜紀子

晴れやかな秋空のもと、第64期生85名の戴帽式が平成28年10月18日に挙行されました。戴帽式に向けて学生の代表である戴帽式委員が中心となり、式に臨む心構えや戴帽の意義を学び、誓いの言葉を作成しました。



戴いたナースキャップやエンブレムを身に付け、ご列席頂いたご来賓や職員、家族、上級生が見守る中、灯火を手に思いを1つにし、声を合わせ誓いました。その言葉の一部をご紹介します。「私たち64期生はナイチンゲールの精神に基づき、優しさ、気配り、思いやりの心を持ち、温かい看護師を目指します。そのためには、患者さんとその家族とコミュニケーションをとり、信頼関係を築きます。患者さんの安全と安楽のために、確かな知識・技術を身に付けられるように日々自己研鑽に努めます。そして、いつも笑顔を絶やさず、患者さんとその家族に心のぬくもりと安心感を持って頂く。」と誓っています。優しく、笑顔の多い64期生らしい誓いの言葉でした。看護師として患者中心の看護援助の提供と、どんな時にも癒しを与えられるような看護師に成長したいという全員の思いが伝わりました。

戴帽式代表の挨拶では、初めての実習で見学した看護師の患者さんを中心に看護する姿や、学校行事でリードする上級生から学んだことを大切に、これから自分たちの成長を支えて下さる方々への感謝を忘れずに看護の道を歩んでいくと、述べていました。

64期生全員で互いに手をとり、辛いときも励まし合い、学び合い、団結して3年間学び続けることを期待します。そして、多くの人との関わりを大切に、看護への興味と関心を持ち続けられるように願っています。64期生一人ひとりが羽ばたく日まで教職員一同、心から支援していきます。

皆様、今後も、学生を温かく見守って頂き御指導を頂きますよう、どうぞ宜しくお願い致します。

学生研究発表会について

62期生 細 井 貴子

千葉県看護学生研究発表会が11月18日に千葉県文化会館にて開催され、当校は2年生と3年生の計168名が参加しました。この発表会では県内の看護学校20校から選ばれた25人の看護学生が臨地実習での学びをレポートにまとめ発表しました。

当校からは3年生2名が選出され、口演では道本香鈴さんがフィングの危機モデルを用いた患者心理の考察を発表しました。示説では鈴木希和さんが絵本を用いたプレバレーションの実例をもとにバンデューラの自己効力感を用いた考察を発表しました。看護を学ぶ学生にとってはどれも興味深い話であり、どの会場も満席となりました。

特に3年生の私たちにとっては、約1年に渡る臨地実習が終了した直後だったので、自らの実習を振り返る良い機会となりました。そして他の学生の事例を通して新しい学びを得ることも多く、お世話になった方々への感謝の気持ちと共に改めて看護の奥深さを考える貴重な1日となりました。

市民健康セミナーの開催

当院では千葉市民の皆様へ健全な生活を営んで頂くために、少しでもそのお手伝いができればと考え、8月を除く毎月「市民健康セミナー」を当院地域医療研修センターで開催しております。

10月～12月に行われたセミナー

10月27日(木) 「摂食・嚥下障害ってご存知ですか?
—おいしく、楽しく、安全にお食事をとっていただくために—」

講師：摂食・嚥下障害看護認定看護師

飯原 由貴子

11月24日(木) 「おなかの健康と食べ物のお話」

講師：栄養管理室長 宮本 佳世子

12月22日(木) 「前立腺がんの診断と治療について」

講師：泌尿器科医長 一色 真造

今後の予定

第4木曜日 午後2時から4時
会場：当院地域医療研修センター

1月26日(木)

「タバコによる健康被害について」

講師：外科 守 正 浩

2月23日(木)

「便秘について」

講師：外科 佐々木 巨亮

3月23日(木)

「一般外科疾患に対する腹腔鏡手術

～そけいヘルニア、腹壁ヘルニアを中心に」

講師：外科 山本 海介

セミナーに10回参加された方には
記念品をさしあげます。

(お問い合わせ先 管理課)

専門外来担当医師表

診療科	月	火	水	木	金
和漢診療科		永井千草 8:30～13:00 完全予約制	永井千草 8:30～13:00 完全予約		
腎内科(内科)			上田志朗 <第2・4水曜日>8:30～11:00		
不整脈外来(循環器内科)			上田希彦<第2・4水曜日> 14:00～16:30 完全予約制		
ヘルニア専門外来(外科)				山本海介 13:00～15:00	
緩和ケア外来(外科)		豊田康義 手渡(認定看護師) 13:30～15:30 完全予約制	豊田康義 手渡(認定看護師) 9:30～11:00 完全予約制		
ストーマ外来(外科)					谷(認定看護師) 外来診察時間内
禁煙外来(外科)			守正浩 13:00～ 完全予約制	守正浩 14:00～ 完全予約制	
肛門外来(外科)	守正浩 14:00～16:00 完全予約制				
助産師外来(産婦人科)	<完全予約制> 午後2枠	<完全予約制> 午後	<完全予約制> 午後2枠	<完全予約制> 午前・午後	<完全予約制> 午後2枠
性カウンセリング(総合診療室)				大川玲子 8:30～17:00 完全予約制	

検査担当医師表

診療科	月	火	水	木	金
胃内視鏡検査 (午前)	金田 暁	田村 玲	斉藤 正明	阿部 朝美	伊藤 健治
	里見 大介		里見/土岐	福富 聡	
大腸ファイバー(午後)	内科交替医	外科交替医	外科交替医	外科交替医	内科交替医
超音波	腹部	阿部 朝美	田村 玲	伊藤 健治	杉浦/金田
	心臓			山田 善重 <第2・4木曜日> 午前	高見 徹

編集後記

2017年は「酉年」・・・十二支の10番目の干支「酉(とり)」ですが、漢字の「鳥」ではなくて「酉」か知っていますか?

2017年の干支は「酉」【丁酉(ひのととり)】ですが、その読み方や由来・言い伝えが気になりますね・・・酉という漢字は普段あまり使いませんが、「鳥」や「鶏」ではないので、書き間違いに注意が必要とはいえ「酉」は二ワトリの事を指していますので、うっかり間違えても仕方ないかも知れませんね。

「2017年の干支は酉」と言いましたが、厳密には酉は干支ではありません。
正しく言うのであれば、「来年の十二支は酉」と言う言い方になります。
しかしここまで細かく言われることはないですし、一般的には「干支」で大丈夫。
話のネタに覚えておいてください。良いお年を・・・

(K)

【編集委員名簿】

(編集長 杉浦 信之)
(副編集長 三井 光義)
(斎藤 幸雄)(木村 寿)
(新藤 学)(打矢 直記)
(坂野 和彦)(徳淵真由美)
(佐藤 厚子)

外来診療担当医師表 “聞く” “聴く” “訊く” の対応を! 平成29年1月1日より

診療科		月	火	水	木	金	
受付時間は原則として、平日(月曜日から金曜日)の8:30から11:00まで							
内科	新患	杉浦信之	杉浦信之	杉浦信之	森 泰子	齊藤正明	
		齊藤正明	齊藤正明	[交替医]	田村 玲	岡澤哲也	
	再診	呼吸器内科 <small>新患は紹介制</small>	丸岡美貴	西村大樹	江渡秀紀	丸岡美貴	江渡秀紀
		消化器内科 <small>(消化管、肝、胆、膵)</small>	安田直史	栗山彩花	栗山彩花	西村大樹	安田直史
		総合内科	伊藤健治	金田 暁	伊藤健治	篠崎勇介	阿部朝美
	田村 玲	金子達哉	阿部朝美	西村光司	興梠慧輔		
				金田 暁			
				後藤茂正 <small>(血液)</small>			
糖尿病代謝内科	<small>新患は紹介制</small>	島田典生	石塚伸子	島田典生	岡澤哲也	島田典生	
				由井健智		大原恵美	
神経内科	<small>新患は紹介制・予約制</small>	長瀬さつき	古本英晴	長瀬さつき	古本英晴	櫻井 透	
精神・神経科	再診 <small>再診患者のみ</small>	海宝美和子	尾久守侑	海宝美和子	清原雅生		
			篠崎勇介				
循環器内科	<small>新患は紹介制・月曜日は完全予約制</small>	高見 徹	久保健一郎	宮澤一雄	高見 徹	中里 毅	
小児科		重田みどり	重田みどり	渡邊博子	重田みどり	重田みどり	
外科・消化器外科		森嶋友一	[交替医]	豊田康義 <small>(緩和ケア)</small>	小林 純	[交替医]	
		福富 聡		山本海介	里見大介		
		榊原 舞		利光靖子	土岐朋子		
		守 正浩		石毛孔明	佐々木巨亮		
乳腺外科	<small>紹介制・完全予約制</small>	鈴木正人	鈴木正人	手術日	鈴木正人	鈴木正人	
	中野茂治	中野茂治		中野茂治	中野茂治		
	大河昭彦	[交替医]	大河昭彦	村上宏宇	[交替医]		
整形外科		阿部 功	手術日	阿部 功	白井周史	手術日	
		村上宏宇		佐久間 詳浩	佐久間 詳浩		
		白井周史		乗本将輝	乗本将輝		
				正田純平	正田純平		
股・膝関節外来	<small>完全予約制</small>			阿部 功 <small>(股関節)</small> 14時～15時30分	白井周史 <small>(膝関節)</small> 13時30分～15時		
形成外科	<small>木曜は完全予約制・金の受付は10時まで</small>	手術日	鈴木文子 三木規子	手術日	[交替医] <完全予約制>	鈴木文子	
脳神経外科		丹野裕和	丹野裕和	丹野裕和	手術日	尾崎裕昭 川崎宏一郎	
呼吸器外科		尾崎裕昭	川崎宏一郎	大石博通	手術日	尾崎裕昭 川崎宏一郎	
		斎藤幸雄	手術日	斎藤幸雄	斎藤幸雄 芳野 充	手術日	
心臓血管外科			中谷 充 <完全予約制>	平野雅生 鬼頭/増田		増田政久 中谷 充	
皮膚科	<small>受付は10時まで 月・木は完全予約制 新患は診療制限あり</small>	浦崎智恵	浦崎智恵	[交替医]	角田寿之	浦崎智恵	
		<完全予約制>		浦崎智恵	<完全予約制>	[交替医]	
泌尿器科		佐藤直秀	櫻山由利	手術日	佐藤直秀	[交替医]	
		一色真造	一色真造		櫻山由利		
		川名庸子	宮坂杏子		川名庸子		
		宮内武弥					
産婦人科	<small>新患受付は月・水・金(紹介制)</small>	山縣麻衣 田淵彩里	<完全予約制>	岡嶋祐子	<完全予約制>	岡嶋祐子 林 若希	
		黒田香織 <small>(産)</small>	林 若希 <small>(産)</small>	山縣麻衣 <small>(産)</small>		田淵彩里 <small>(産)</small>	
眼 科		新井みゆき	新井みゆき	新井みゆき	手術日	豊北祥子	
		大岡恵美	大岡恵美	大岡恵美		大岡恵美	
		櫻井まどか	櫻井まどか	櫻井まどか		櫻井まどか	
		柿栖将人	柿栖将人	柿栖将人		柿栖将人	
頭頸部外科・耳鼻咽喉科	<small>新患は紹介制 再診は予約制 火・水の受付は10時まで</small>	渋谷真理子	渋谷真理子	[交替医]	手術日	鈴木 誉	
		坂本夏海	鈴木 誉	手術日	手術日	坂本夏海	
		蒔田勇治		*新患のみ		蒔田勇治	
放射線科	治療	酒井光弘<予約制>		酒井光弘<予約制>		酒井光弘<予約制>	
歯科口腔外科		中津留 誠	中津留 誠	中津留 誠	嶋田 健	中津留 誠	
		嶋田 健	嶋田 健	嶋田 健	石田 翔	嶋田 健	
病理診断科		<完全予約制(月～金)>					

※専門外来・検査担当表は11ページに掲載しています。